

# 西洋史概説 I

科目ナンバリング HEA-101  
選択必修 2単位

石川 敬史

## 1. 授業の概要(ねらい)

この授業は、西洋史を概観することを通して、「西洋とは何か」について、受講者各人が自分自身の識見を修養することを目的としています。私たちが身をおく、現代の国家システム、あるいは基本的人権のような法概念や、民主主義といった政治思想、今日の諸国家による外交システム、さらには大学制度といったものは、西洋の歴史的文脈から多分に偶然生まれたものでした。この授業では、「西洋という規範」がどのような歴史的経緯から形成されてきたのかを学修します。(※大学での学びを「学修」といいます)

高校までの世界史とは一味違う角度から、教養としての西洋史を学ぶ機会としてください。日本史に関心のある方にとっても、東洋史に関心のある方にとっても有益な視点が得られるでしょう。

西洋史は多くの場合、古代・中世・初期近代・近代と便宜上区分されますが、この西洋史概説 I では、古代から中世の終わりに位置するルネサンスまでを射程とします。

## 2. 授業の到達目標

人間や社会のあり方を幅広く俯瞰的にみるための見識を獲得し、それを他者に説明できるようになる。  
自分が読むべき本を自分で探し出せるようになる。

## 3. 成績評価の方法および基準

2度の小レポート提出20%

対面授業最終日の14週目に行う授業内試験による評価80%

※小テストの日程については、授業の進行状況によって調整が必要となるため、授業内で指示します。

## 4. 教科書・参考文献

### 教科書

教科書は特に指定せず、講義毎にレジュメ・資料を配布する。

その他、参照すべき文献は、授業で適宜紹介する。

### 参考文献

金澤周作監修 『論点・西洋史学』(2013年)

ミネルヴァ書房

山下範久編著 『教養としての世界史の学び方』(2019年) 東洋経済新報社

## 5. 準備学修の内容

前の講義時に配布したレジュメ・資料の内容を確認しておく。

何を理解し、何が分からなかったかを明らかにしておく。

授業で紹介した文献の該当箇所を読んでおく。

## 6. その他履修上の注意事項

高校までの世界史の授業とは大きく異なるので、まずは復習を中心に学修しておくことを勧めます。

質問は随時受付けますので、積極的な姿勢で授業に臨むことを願います。

第14週目に授業内試験を行い、第15週目にLMSによる総括講義を行います。

## 7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス  
本講義の概要と意義、学修方法について詳細な説明を行う。
- 【第2回】 古代ギリシャの歴史と思想(1)  
1. 古代ギリシャにおける政治と哲学  
2. アテナイ人の価値観と民主主義
- 【第3回】 古代ギリシャの歴史と思想(2)  
1. ソクラテスとは何者か  
2. プラトンの政治哲学  
3. アリストテレスの政治哲学
- 【第4回】 古代ローマの歴史と思想  
1. ギリシャ的なものとローマ的なもの  
2. ヘレニズム文明の思考様式  
3. ポリビュオスの政体循環説と混合政体論  
4. 帝政ローマの社会思想
- 【第5回】 キリスト教の誕生と展開(1)  
1. ヘブライズムと一神教  
2. キリスト教の誕生  
3. 民族宗教と世界宗教
- 【第6回】 キリスト教の誕生と展開(2)  
1. 教父哲学と神学の誕生  
2. アウグスティヌスの神学と政治思想
- 【第7回】 前半の総括講義
- 【第8回】 中世ヨーロッパの歴史と思想  
1. 滅びるローマと生き残るキリスト教会  
2. キリスト教普遍世界の構造と論理  
3. スコラ哲学とトマス・アキナス
- 【第9回】 ルネサンスと宗教改革(1)  
1. キリスト教普遍世界が解体した契機について  
2. 中世ヨーロッパについての総括
- 【第10回】 ルネサンスと宗教改革(2)  
1. ルネサンスとは何か  
2. ヒューマンイズムの諸展開

- 【第11回】 ルネサンスと宗教改革(3)
  - 1. シヴィック・ヒューマニズムの登場
  - 2. マキヤヴェッリの政治思想
- 【第12回】 ルネサンスと宗教改革(4)
  - 1. 宗教改革とは何か
  - 2. 正統と異端
  - 3. 様々な異端
- 【第13回】 ルネサンスと宗教改革(5)
  - 1. ルターの宗教改革
  - 2. カルヴァンの宗教改革
  - 3. 世俗君主の台頭
- 【第14回】 まとめと授業内試験(60分)
- 【第15回】 絶対王政の誕生  
これとは別に全体の授業の総括講義をLMSのオンライン授業で行う。